

2. 市民力向上(市民学習・研修)事業

— 市民対象に多様な学習の機会として29コース、104講座を提供。のべ1,955人が受講。

協会は、A.「一般市民向け」の講座、B.「NPO関係者」向け講座、C.市民活動推進の「専門職対象の講座」と、多様な講座を開講している。2019年度は、3形態、29コース、104講座を開講、のべ1,955人が受講した。

また、他団体が開催する講座などにのべ102人の講師を派遣、1万2,313人が受講した。

1. 研修事業の全体像

市民活動に関する協会の研修事業は、協会主催で各種の講座を開催するとともに、外部からの依頼に応え、講座企画・講師派遣という形で、全国各地で市民活動に関する講演活動(出前講座)を行っている。

その参加者数の推移を図2-1に、主催講座(事務局を担った共催講座を含む)の参加者(のべ人数)の推移を図2-2に示す。主催講座は、企業担当者向け研修会以外の一般市民向けや専門職向け、NPO向けの講座が減少したことから参加者数は減少し、全体の参加者数は、前年度より839人減となった。また講師派遣は、当初受注が順調ではあったが、新型コロナウイルスの影響により、2020年2月以降にキャンセルが相次ぎ、非常勤講師以外の講師派遣依頼は依頼件数、参加者数共に減少している。

図2-1 研修事業の参加者数 N=14,268

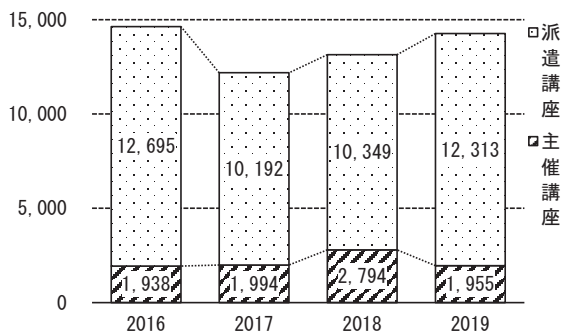
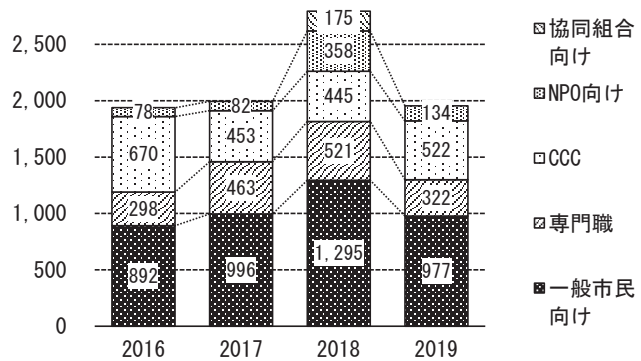


図2-2 主催講座の参加者数 N=1,955



2. 講座・研修会の開催

協会全体での主催講座数(事務局を担った共催講座を含む)は29コース(前年度34件)、104講座(同139)のべ参加者数は1,955人(同2,794)だった。以下、会場の記述がないものはすべて「CANVAS谷町」で開催。

【A. 一般市民向けの講座:「市民力」向上の取り組み】

(1)「定期総会記念講演会」

定期総会記念講演会として、「紛争地に平和を築く仕事とは～現地での取り組みと私たちができること～」をテーマに実施した。

・日時:2019年6月16日(日)13時~14時30分 ・参加者:74人

・講師:瀬谷ルミ子(認定NPO法人日本紛争予防センター(JCCP)理事長、JCCPM株式会社取締役)

(2)裁判員ACT「お笑い裁判員」「裁判体験記傍聴記コンテスト」「連続セミナー&公開学習会」「子ども法廷プロジェクト」等の開催

“裁判員ACT”裁判への市民参加を進める会チームでは、裁判員制度開始10周年にあたり、制度がより良いものになるよう記念事業および恒常的な事業に精力的に取り組む、のべ184人が参加した。会場の記載のないものは全て市民活動スクエア「CANVAS谷町」会議室で開催。参加費の記載のないものは無料。また参加者のうち希望する者へメール情報「ACT通信」の配信7回と、協会ブログや裁判員ACT公式Facebookへの同時情報掲載を行い、情報提供した。裁判員裁判を傍聴する「傍聴カフェ」をほぼ毎月の計12回行ったが、チー

ム員兼弁護士が同行して解説を行う公開分は内8回開催し、一般の傍聴希望者はのべ21人が参加した。チーム員の関心を深めたり学習会等参加者の次の参加の場となる経験者の聞き取りは1回(1/30)開催した。なお、今年度は10周年記念事業が多かったこともあり、ミニ学習会、司法ドキュメンタリー鑑賞会の開催は見送った。

(お笑い裁判員)「お笑いで考えよう裁判員ってどんなんやろ?」★10周年記念★

- ・日時:2019年5月19日(日)14時~16時 ・参加費:1,200円(前売割引等は1,000円)
- ・参加者:53人 ・出演:ひこーき雲、ともだち、明賀英樹(大阪弁護士会)、西村健(大阪弁護士会)
- ・協力:大阪シナリオ学校演芸放送台本コース、スパンキープロダクション・監修:大池晶さん(漫才作家)

(2019 裁判体験記傍聴記コンテスト)★10周年記念★

- ・応募数12人、一般:大賞1人、入選4人、学生:佳作1人 ・授賞式:2019年12月1日

(2019 連続セミナー&2019 公開学習会)

◎「きっかけは、裁判員。裁判員になって考えたこと。その後、始めたこと。」[NHK歳末たすけあい募金助成事業]

- ・日時(第1回):2019年9月7日(土)14時~16時30分 ・講師:澁谷友光さん(青森/青少年を見守るNPOを設立)、裁判員交流会インカフェ九州発起人(福岡/裁判員の語りの場を設立) ・参加者:9人
- ・日時(第2回):2019年10月27日(日)14時~16時30分 ・講師:古平エミさん(東京/子どもたちの「議論」の勉強会を主宰)、西村昌之さん(大阪/地域で少年補導員として活動) ・参加者:6人

◎「みんなで考えよう裁判員制度」

- ・日時(第3回):2019年12月1日(日)13時30分~17時 ・参加者:39人
- ・内容と講師:第1部「裁判員制度の基本を知る」、講師:笹倉香奈(甲南大学法学部教授)、第2部「裁判員経験者の話を聞く」、第3部「グループディスカッション」
- ・参加費:各回1,000円(全回参加の場合や協会個人会員は割引あり)

(子ども法廷プロジェクト)「さいばんをやってみよう」★10周年記念★[子どもゆめ基金助成活動]

- ・日時:2020年1月13日(月・祝)14時から17時 ・会場:生駒市コミュニティセンター
- ・講師:磯野太郎さん、西村健さん、森野俊彦さん ・参加者:44人(小中学生21、高校生8、大人15)

(傍聴カフェ・公開分)

- | | | |
|-------------------------|-------------------|---------|
| ・日時(第38回):2019年5月8日(水) | ・案内人:明賀英樹(大阪弁護士会) | ・参加者:8人 |
| ・日時(第39回):2019年6月11日(火) | ・案内人:なし | ・参加者:4人 |
| ・日時(第40回):2019年7月17日(水) | ・案内人:明賀英樹(大阪弁護士会) | ・参加者:2人 |
| ・日時(第41回):2019年8月27日(火) | ・案内人:森野俊彦(大阪弁護士会) | ・参加者:0人 |
| ・日時(第42回):2019年9月17日(火) | ・案内人:森野俊彦(大阪弁護士会) | ・参加者:1人 |
| ・日時(第43回):2019年9月25日(水) | ・案内人:明賀英樹(大阪弁護士会) | ・参加者:3人 |
| ・日時(第48回):2020年2月4日(火) | ・案内人:森野俊彦(大阪弁護士会) | ・参加者:2人 |
| ・日時(第49回):2020年3月2日(月) | ・案内人:なし | ・参加者:1人 |

(3)「はじめてのボランティア説明会」[大阪市委託事業]

全29回。参加者:102人。詳細は第1章「ボランティアコーディネーション事業」で報告。

(4)「SAVE JAPAN プロジェクト2019 in 兵庫」[日本NPOセンター受託事業]

47都道府県のNPOと市民、損害保険ジャパン日本興亜(株)が一緒になって、全国各地で「いきものが住みやすい環境づくり」を行うプロジェクト。地域の環境団体やNPO支援センター、日本NPOセンターと協働で、市民参加型の屋外イベントを開催した。

「食べて・調べて・考える 美味しい里山探検隊!」

- ・日時:2019年7月14日(日)10時~13時
- ・参加者:20人 ・場所:兵庫県丹波市・与戸の里山

「クワガタの森づくりにチャレンジ!!」

- ・日時:2019年8月24日(土)10時~14時
- ・参加者:30人 ・場所:兵庫県丹波市・与戸の里山
- ・主催・共催:(特)森の都研究所、丹波市美和地区自治振興会、(特)丹波グリーンパートナー、(福)大阪ボランティア協会
- ・協力:(認特)日本NPOセンター ・協賛:損害保険ジャパン日本興亜(株)



(5) 震災復興応援イベント「3.11 from KANSAI 2020」の企画協力

「3.11 from KANSAI 2020～長い目、広い目、たやさぬ目～」を実行委員会制で企画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、やむなく順延とした。
 ・参加者：0人。詳細は第4章「災害・復興支援、防災事業」で報告。

(6) 災害時要配慮者支援研修「福祉避難所運営ゲーム」〔大阪市委託事業〕

福祉避難所の運営者になったことを想定し、次々やってくる災害時要配慮者（障害者、外国人、妊婦など）をどのように受け入れ、発生するトラブルにどう対応するか、シミュレーションゲームを体験した。詳細は第4章「災害・復興支援、防災事業」で報告。

(7) ごちゃまぜ まるごと被災シミュレーション〔要配慮者を包摂した防災・減災（新SAVEJAPANモデル事業）〕

災害時にスペシャルニーズ（特別な配慮）を必要とする人になりうることや、応援・支援できることがあること、互いの配慮と気づきにつながることを目的として「まちなか被災シミュレーション」「みんなで話そう！防災カフェ～役にたつこと、たたないこと」「備蓄品から考える本当に意味のある減災教育」「防災トーク交流会」の4つのプログラムを実施した。詳細は第4章「災害・復興支援、防災事業」で報告。

(8) 「ボランティアリズム研究所」市民向け講座〔NHK歳末たすけあい募金助成事業〕

◎「市民セクターが挑む、社会的孤立の抑制・解消への道程」：3回開催。のべ参加者：82人
 詳細は第6章「情報提供・出版・市民シンクタンク事業」で報告。

(9) 「CANVASよるがく」の開催

ボランティア・NPOをもう一步深く知りたい方を対象に、金曜“夜”にCANVAS谷町に“寄る”まなび&つながりの場として、2017年9月から始めた。2019年度はのべ326人の参加があった。講師は、主に協会アソシエーターが得意なテーマでチャリティ講師として担当。2019年度からは毎月2回程度の開催とし、一つ一つの広報にも注力して、各回の参加者の増加を試みた。バラエティに富んだテーマなので、それぞれのテーマ毎に参加者が変わり、新たな層との出会いも生まれている。また、ゆるやかに自由に語らう場「CANVASカフェ」も、会員による自主企画として2016年度より奇数月第4金曜の夜に開催している。



回	テーマ	講師・話題提供者	日程	参加者数
第33夜	メンタルヘルスに役立つコミュニケーション	谷水美香	2019年4月19日	19人
第34夜	外国人とのコミュニケーションで役立つ「日本語でつたえるコツ」	『日本語でつたえるコツ』広げる委員会	2019年4月26日	11人
第35夜	「哲学・社会学カフェ遊びと市民活動ー」	岡本仁宏	2019年5月17日	16人
第36夜	「裁判員裁判から10年<実例>弁護士からみた市民のチカラ」	西村健	2019年5月26日	12人
第37夜	「大阪北部地震から見えてきたこと～大阪府民の自助と互助～」	湯井恵美子	2019年6月14日	16人
第38夜	「アレ世コレ世で社会が動きだした!～“地下鉄駅にエレベーター運動”の恥ずかしながらの顛末記～」	牧口一二	2019年6月21日	16人
第39夜	「神戸版コミュニティソーシャルワーカー～地域福祉ネットワークの孤立との戦い～」	長谷部治	2019年7月12日	27人
第40夜	「反『優生学講座』～うつ病の僕が戦時下にタイムスリップしたら～」	藤井渉	2019年7月26日	40人
第41夜	「ディズニー映画から考える価値観の違う人間関係と性役割」	芝崎美世子	2019年8月23日	23人
第42夜	「発達障害者が活躍できる職場づくり～技術があるのに働けない～をなくしたい～」	上林康典 小林宏樹	2019年9月13日	34人
第43夜	「社協で何だ?!&スマート社協3.0構想」	小柴徳明	2019年10月11日	43人
第44夜	「ボランティアが活きる組織づくり～ボランティアマネジメント入門～」	早瀬昇	2019年10月25日	18人
第45夜	「イエスの倫理、ホップズの苦しみ、そしてボランティア」	岡本仁宏	2019年12月13日	16人
第46夜	「私の人生を変えた“ボラ協”との出会い～『サマーボランティア』から『なぎさのコミュニティ研究』まで」	新崎国広	2020年1月24日	16人
第47夜	「若者参加が社会を変える!!」	名賀亨	2020年2月14日	19人
第48夜	「地元デビューで地元を変えよう!」	杉浦健	2020年2月28日	新型コロナで延期
第49夜	「『コミュニティワーカー』という生き方～社協でやってきたこと、ボラ協、岸和田でのこれから～」	青山織衣	2020年3月13日	新型コロナで延期
合計				326人

【B. NPO関係者向けの講座:「組織力・経営力」向上の取り組み】

(1) NPO入門研修 (NPO法人設立・運営説明会シリーズ) [NHK歳末たすけあい募金助成事業]

①. NPO入門講座「はじめてのNPO説明会」

- ・開催日(個別): 2019年4月2日(火)、4月8日(月)、4月17日(水)、5月15日(水)、5月19日(日)、7月3日(水)、11月9日(土)、12月20日(金)
- ・参加者: 計12人(前年度16人/年12回) ・講師: 梅田純平(大阪ボランティア協会)
- ・内容: NPOとは? / 市民活動を組織化すること / NPOにとっての会員、役員とは

(2) その他のセミナー

①. Yahoo!基金 NPOの知らせるカプロジェクト プロのジャーナリストに学ぶ「書き手講座」

[日本NPOセンター受託事業]

NPOなど非営利組織の情報発信等の担当者を対象に、事前の課題も提出してもらい「読んでもらえる文章とは?」について、文章のプロであるジャーナリストから「書き手」のワザと心得を学んだ。Yahoo!基金が主催で日本NPOセンター、朝日新聞ジャーナリスト学校、大阪ボランティア協会が協力で実施した。

- ・日時: 2019年10月4日(金) 13時~18時 ・参加者: 26人
- ・講師: 早坂敏文、青木康行、真下聡(朝日新聞ジャーナリスト学校)

②. NPOのための助成金セミナー [トヨタ財団受託事業]

テーマや助成金に関心がある方を対象に助成金のメリット・デメリット、申請の際のコツについて学び、実際に助成金を活用された事例を通して助成金の活用について考え学んだ。またトヨタ財団の「国内助成プログラム」の説明会も行った。トヨタ財団が主催で大阪ボランティア協会は協力で実施した。

- ・日時: 2019年9月3日(火) 18時~21時 ・参加者: 44人
- ・内容: 講義「NPOにとっての助成金とは」、事例報告(ゆうあんビレッジ)、対談「助成金活用の実際」

③. ファンドレイジングの実際とこれから~NPOの人の参加とお金の参加のいい関係~

[タケダ・NPOサポートプログラム]

2015年からNPOの組織基盤強化につながるファンドレイジング力(人の参加・お金の参加)にフォーカスした「タケダ・NPOサポートプログラム(武田薬品工業株式会社)」に取り組んできた4つのNPO団体とプログラムの成果および実例をもとに、ファンドレイジングの実際とこれからについて考えるフォーラム。大阪ボランティア協会が主催で武田薬品工業株式会社の協力で実施した。

- ・日時: 2020年1月30日(木) 14時~17時 ・参加者: 30人
- ・内容: 「タケダ・NPOサポートプログラム」についての紹介、各団体からの報告、武田薬品工業株式会社担当者も含み各団体と「ファンドレイジングのこれから」をテーマにパネルディスカッション。
- ・会場: ドーンセンター 特別会議室

④. リサーチ&アクション・セミナー2019 市民活動の実践を科学する力をつける

科学的調査で活動バージョンアップ-実践者と研究者の協力はこんなにすごい!-

参加者22人。

詳細は第6章「情報提供・出版・市民シンクタンク事業」で報告。

【C. 市民活動推進のための専門職養成講座】

(1) 「ボランティアコーディネーター養成講座」(第45期) [共催: 日本ボランティアコーディネーター協会]

新任ボランティアコーディネーター向け。“一日でボランティアコーディネーションが、わかる”共通基礎研修の後、施設・NPO・中間支援に分かれて事例をもとに意見交換した。(認特)日本ボランティアコーディネーター協会との共催。

- ・開催日: 2019年8月3日(土) ・参加者: 55人(のべ110人) ・会場: 大阪府社会福祉会館
- ・講師: 青山織衣(日本ボランティアコーディネーター協会)、岩本裕子(関西国際大学)、新堀春輔(京都市環境保全活動推進協会)

(2)「ボランティアコーディネーション力検定・直前研修」

〔3級・共催、1級・協力：日本ボランティアコーディネーター協会〕

(認特) 日本ボランティアコーディネーター協会が主催の上記検定の直前研修の共催や、試験監督に協力した。

①.「3級検定直前研修」(共催)

- ・開催日：第27回=2019年6月29日(土)、第28回=2019年12月8日(日)
- ・参加者：第27回=61人、第28回=52人
- ・講師：第27回=青山織衣(日本ボランティアコーディネーター協会)、岡村こず恵(甲南大学)
第28回=杉浦健(共働プラットフォーム)、永井美佳(大阪ボランティア協会)

②.「1級検定試験監督」(協力)

- ・開催日：2019年7月28日(日) ・試験監督：永井美佳(大阪ボランティア協会/1級合格)

(3)「ボランティアの受け入れ 困ってること、悩んでること 共有しましょう!サロン」〔大阪市受託事業〕

- ・第1回参加者：1人 ・第2回参加者：6人 ・第3回参加者：0人ため中止 詳細は第1章「ボランティアコーディネーション事業」で報告。

(4)「楽しく活動をするためにボランティアリーダーに必要なコミュニケーションを学ぼう」〔大阪市受託事業〕

ボランティアリーダーに必要なコミュニケーション術を学ぶ講座を実施、10人が参加。詳細は第1章「ボランティアコーディネーション事業」で報告。

(5) 公開研修「ソリューションビルディングアプローチ入門」〔大阪市受託事業〕

全1回。参加者：25人。詳細は第1章「ボランティアコーディネーション事業」で報告。

(6) 公開講座「インクルーシブボランティア講座～誰もがボランティア活動に参加しやすい環境づくりとは～発達障害や精神障害のある(その可能性のある)人たちのボランティア活動を考える」〔大阪市受託事業〕

新型コロナウイルスの感染拡大を鑑み、延期。詳細は第1章「ボランティアコーディネーション事業」で報告。

(7)「全国ボランティア推進団体会議(通称：民ボラ) in 千葉」(第37回)

「全国ボランティア推進団体会議」の世話人として、第37回の実行委員会の企画運営に参画した。

- ・開催日：2019年7月6日(土)～7月7日(日) ・参加者：参加者のべ112人(6日58人・7日54人)
- ・会場：生活クラブ生協千葉本部(千葉県千葉市美浜区)
- ・テーマ：SDGsが取り残すもの—今ある地域課題をSDGsで解決できるのか?
- ・内容：7月6日：全体会「SDGsが取り残すもの—今ある地域課題をSDGsで解決できるのか?」、分科会1「ユニバーサル終了について—ひきこもり支援からユニバーサル就労のこれからを考える」、分科会2「休眠預金活用時台の草の根市民運動—市民活動支援組織が支えるべきものは何か」、懇親会、7月7日：分科会3「入管法が変わる中で多文化共生をどのように進めるか—地域と一緒に、中間支援組織は何かができるか」、分科会4「なぜ民間? どうして民間? そもそも民間って?—ボランティアセンターの民間性の意義を改めて考える」(早瀬が登壇)、全体会「分科会報告—地域課題解決にむけて中間支援組織の役割を考える」(永井が企画運営)

(8) 企業担当者向け研修会の開催 (第5章「企業市民活動推進センター事業」で詳細を報告)

- ①.「フィランソロピー・CSRリンクアップフォーラム」・・・6回。のべ参加者：246人
- ②. 阪神・淡路大震災25年事業「大規模自然災害に対し、企業とNPOはどう協働できるか～阪神・淡路大震災を振り返り、未来を考える～」(主催：フィランソロピー・CSRリンクアップフォーラム(PCLF)/社会福祉法人大阪ボランティア協会)・・・参加者：71人
- ③.「うめきた朝ガク」・・・9回。のべ参加者：202人
- ④.「はじめてのCSR・社会貢献講座」・・・2回。のべ参加者：3人

3. 他団体主催講座等への講師派遣・委員派遣・視察等

(1) 講師派遣の実績

主催講座の一方で、協会では社会福祉協議会、NPO支援センター、行政、企業、市民団体など他団体が開催する「ボランティア講座」「ボランティアコーディネーター研修」「NPO運営セミナー」「協働研修」「CSR研修」などの講座に、職員などを講師として派遣している。

2019年度は164件(前年度176件)の派遣があった。その内訳は、調整の伴う講師派遣102件、協会への視察対応5件、非常勤講師57件で、派遣者は外部講師22件、職員51件、早瀬理事長28件、CCC企画受託1件である。これらの講師派遣等での受講者数はのべ12,313人(同10,349)に達した。依頼内容は、図2-5に示すように、ボランティア全般に関する内容が最も多く、ボランティアコーディネーション、NPO運営、協働、災害対応などの依頼も多い。2019年度は、講師派遣の受注は順調であったが、2020年2月以降新型コロナウイルスの影響下で、キャンセルが相次いだ。日程等の条件が合わずキャンセルとなったものも含め、キャンセル件数は29件(同13)となった。講師派遣は協会の重要な収入源となっているため、オンライン講師など、このコロナ禍でも受注をもらえるための打開策を検討することが急務となる。

(2) 非常勤講師・委員派遣等の実績

依頼を受けて派遣する講師のほか、職員などが非常勤講師として、龍谷大学、関西大学、甲南女子大学などで、「NPO・ボランティア論」、「市民活動論」「プロジェクト・マネジメント論」などを担当している。また行政や社会福祉協議会、NPO支援センターなどから委員会、審議会、審査会などの各種委員等の派遣を行っており、2019年度は85件(前年度83件)の派遣があった(講師派遣実績には含まず)。協会事業やCANVAS谷町の運営等の視察対応は5件(同3)行った。視察は大学、支援センターのほか、海外の依頼も多く、韓国、中国やタイなどの依頼昨年度から継続的に依頼があった。

図2-3 講師派遣:依頼団体属性 N=102

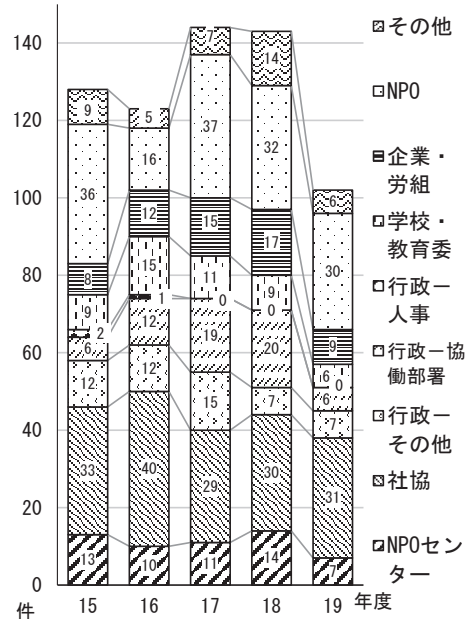


図2-4 講師派遣の派遣地域 N=102

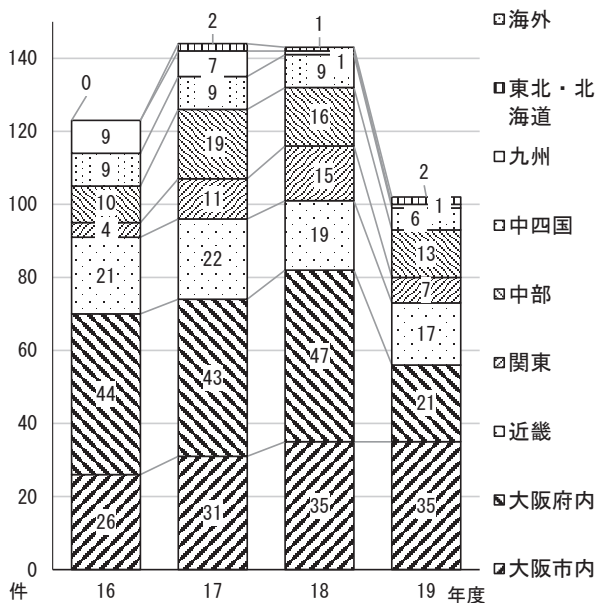
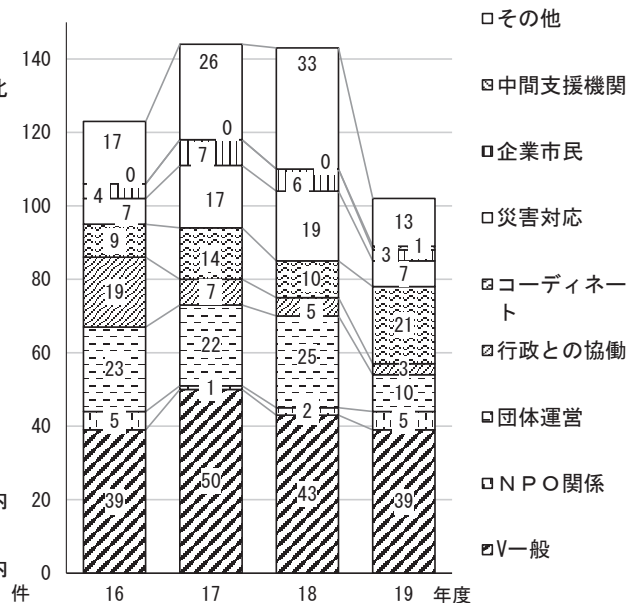


図2-5 派遣講座内容の推移 N=102



(3) 研修生・インターンの受け入れ

2019年度に受け入れたインターンは3人であった(研修生の受入はなし)。

① 「ボランティアスタイル」チームへのインターン受け入れ

- ・氏名: 森本莉永 (大阪大学人間科学部博士前期課程1回生) ・期間: 2019年7月~12月
- ・活動内容: プログラムの企画・運営・広報

② ボランティアコーディネーション事業へのインターン受け入れ

- ・氏名: 中野由起子 (カラマズー大学(アメリカ・ミシガン州)2回生) ・期間: 2019年7月~8月
- ・活動内容: 英語版「ボランティアのはじめ方」、ボランティア募集情報等の作成

- ・氏名: 秋山洋伸 (大阪大学人間科学部3回生) ・期間: 2019年7月~10月(履修中退)
- ・活動内容: ボランティアマネジメントの研究、実践